

聖書ギリシャ語

(英語 Koine Greek ギリシャ語 Κοινή Ἑλληνικά -コイナー・ヘレーニカ)

聖書ギリシャ語は、コイナー(共通のという意味)と呼ばれるギリシャ語がベースになっています。このギリシャ語は前4世紀後半から後6世紀の中頃まで、当時のヘレニズム世界で広く使用されていたギリシア語で、ギリシア本土やマケドニアばかりでなく、アジアやアフリカにも及び、今日の英語のように国際共通語の役割を果たしていましたが、これに各地域固有の言語の発音や単語が加わっています。聖書ギリシャ語においては、宗教的性格から一般のコイナーと比べ、独特の意味が含まれていたり、当時のパレスチナで話されていたヘブライ語やアラム語などセム語の影響が見られるほか、用語の使い方や文章構成にも独自性があり、さらに、新約聖書においては著者により、かなりの変化があります。七十人訳聖書(ギリシャ語訳旧約聖書)もこのコイナーにより書かれています。バビロン捕囚以降、多くのユダヤ人がアジア、アフリカ、地中海方面に広く離散し、(ディアスポラと呼ばれる離散ユダヤ人ですが、一説にはパレスチナのユダヤ人口を凌駕)、旧約聖書のヘブライ語やアラム語を理解できないユダヤ人が多くなったため、コイナー・ギリシャ語による翻訳の必要が生じたためでもあります。イエスや使徒たちが持っていた聖書もこの七十人訳で、さらに新約聖書(ギリシャ語・一部当時のパレスチナで一般的に話されていたアラム語)の中で引用される旧約聖書も七十人訳からのものです。

参考文献：

ブリタニカ国際大百科事典

新約聖書ギリシャ語独習 笠原義久講師 日本聖書神学校